

イグアス・ダム機械化中止

日パ経済協力史上初の事態 214億円の借款キャンセルに

パラグアイ 坂本邦雄

日本の円借款によるこのプロジェクトは、最初ゴンサレス・マキ大統領(1999〜2003)の時代に始まり、次のニカノル・フルト大統領(2003〜2008)の政権下、2006年2月16日に漸く契約の調印に至ったものだが、諸般の不透明な事情でその後も本格的な着工が今日まで延び延びに遅延して来た経緯がある古い話である。だがこの1月、ついに実現不可能の決断が下され、パラグアイ政府は日本に円借款を諦めることを正式に伝えた。

同プロジェクト資金はJICA/JBICの214億200万円に及ぶパラグアイ電力公社・ANDIEに対する円借款で、償還期限40年、据え置き期間10年、年利0.75%と云うすこぶる結構な貸付条件であった。

その差額不足分をANDIEはいかにして工面するかの問題があったところから、イグアス建設コンソーシアム・Tamargo Correa SA y Talavera & Ortelindo SAの1社のみが提出した唯一の土木及び水力機械化工事に関する所謂ナンバートゥットのサブプライム価格(2億5270万5195ドル)に対し、JICA/JBICは最近異議なし、ノーオブジェクションのゴーサインを出した。

これでは、暗に日本側は既にANDIEの尻拭いをする追加借款を容認した何らかの含みがあった事ではないかと疑われる。ABC紙などはこの発電所計画の裏にはアンタツチャブルなシタタカなパトロンの政治操作で、プロジェクトの策定に当たったコンサルタンタの日本工務株はそのグルの日本企業は、現に隣接各国が悩んでいるような電力不足の危機が、我が国でも絶対に訪れないのではないかという批判をするのだった。

「利権法の恩恵の許に参加は容易に得られる」とも付言した。他方、ギリエルモ・ロペス・フローレス技術者もこれに同感で、この様な発電所開発方式で、今回中止になった約4億ドルにもコストが倍増し、《巨大な「白象」に危うくなり「白象」に危うい事業だ》と残念である。この様な次第で、日本政府の協力に依りながら、日本当局は事前に協力対象プロジェクトの慎重な吟味に留意し、まかり間違った援助享受国に「白象の」最終的には国民に「とんでもない負担をかけるに優良案件を厳選する事が大切だと思われる。



イグアス・ダム機械化プロジェクトの予定地の様子

突然の実施取り消し報道が取り沙汰されてきたところ、1月27日付ABC紙は「政府は過去約10年間も燃つて来た、いわく付きのイグアス発電所プロジェクト及び当該借款は実施不可能な案件だとの結論に達し、最終的にこれを取り消す事に踏み切った」と報じた。

このように様々な問題が取り沙汰されてきたところ、1月27日付ABC紙は「政府は過去約10年間も燃つて来た、いわく付きのイグアス発電所プロジェクト及び当該借款は実施不可能な案件だとの結論に達し、最終的にこれを取り消す事に踏み切った」と報じた。最後までイグアス・ダム機械化プロジェクトに異常に固執して来たANDIE当局は後退せざるを得なくなった。

「利権法の恩恵の許に参加は容易に得られる」とも付言した。他方、ギリエルモ・ロペス・フローレス技術者もこれに同感で、この様な発電所開発方式で、今回中止になった約4億ドルにもコストが倍増し、《巨大な「白象」に危うくなり「白象」に危うい事業だ》と残念である。この様な次第で、日本政府の協力に依りながら、日本当局は事前に協力対象プロジェクトの慎重な吟味に留意し、まかり間違った援助享受国に「白象の」最終的には国民に「とんでもない負担をかけるに優良案件を厳選する事が大切だと思われる。

「利権法の恩恵の許に参加は容易に得られる」とも付言した。他方、ギリエルモ・ロペス・フローレス技術者もこれに同感で、この様な発電所開発方式で、今回中止になった約4億ドルにもコストが倍増し、《巨大な「白象」に危うくなり「白象」に危うい事業だ》と残念である。この様な次第で、日本政府の協力に依りながら、日本当局は事前に協力対象プロジェクトの慎重な吟味に留意し、まかり間違った援助享受国に「白象の」最終的には国民に「とんでもない負担をかけるに優良案件を厳選する事が大切だと思われる。



イグアス・ダムの上部

年もの長い間に色んな余り良くない風聞が立つて、紆余曲折の挙句「死産」に終わった円借款に依るイグアス・ダム機械化プロジェクトは、当初パラグアイの為に良かれと日本政府は善意を以って取り組んだ事は十分も疑いはない筈である。日本政府は慎重に吟味を

保護犬を災害救助に

徳島県が全国初の試み

【共同】徳島県は、県動物愛護管理センターに収容された保護犬2匹を災害救助犬に育成することを条件に、飼育主となつてくれる一般人2人を公募する。センターで2匹の選定も進め、組み合わせが決めれば訓練を開始。南海トラフ巨大地震などの大規模災害への派遣を想定する。救助犬育成

成には訓練費などに1匹当たり約30万円が必要とされ、プロジェクトは企業からの寄付金で運営する方針。既に1社が60万円の寄付を申し出ており、まずは2匹からスタートする。飯泉嘉門知事は記者会見で「救助犬は多ければ多いほどいい。まずは2匹で成功事例を作っていきたい」と話した。徳島県では2013年度、保護犬1263頭が殺処分された。県安全衛生課の担当者も「人と動物の尊厳を守ることに」



国家地震災害緊急救援隊と共に現地へ向かう災害救助犬

パナマを越えて

本間剛夫

(29)

「編隊でありますか」外光がほのかに届く病床に横になっている上等兵が怯(おび)えた眼を私に向けた。我々の不安はそのまま患者たちに伝播するらしく、回診の順番を待つ彼らの口から同じ言葉が繰り返された。どの兵も生命の不安の中で諦めの色を見せていながら、入院の日数を増すにつれてその眼色はどんよりと曇り空のように淀んでいく。

第九〇一師団のトラック島野戦病院は、病院とは名ばかりの深い渓谷の両側を削り貫いて並んだ、いくつもの洞窟にありつた。その奥は曲がりくねった本道と結ばれ、さらにその上下左右に支道があり、どの道も海に面した出入口には敵の上陸を迎撃するための巨大な砲身が匿されていたり、兵器弾薬、糧秣の類の兵器庫だつたりする。

開戦当初に上陸した友軍が、三年余りの歳月を費やして構築した、もぐらの巣のようなトラック島野地下壕はその規模こそ劣るが、機能ではニューギニアのラポールに勝るといわれる。それは司令部のしばしば行なわれた発表であつたから兵たちに自信をもたせた。

ただ、兵たちにとって最大の問題は食料の補給が絶えたことだ。食料が、例えば二割減量されたとしても、戦闘行為のないトラック島では兵たちは平均的な健康を維持できるはずである。それが平時の八割以下になつてしまつたのだ。ここ半年以来、栄養障害患者が續出してはいるのは、そのためだ。

私の第十六病棟は海岸から最も奥まった、断崖の中腹の洞窟の中にあり、患者を護るには絶好の条件を備えていたが、皮肉にも、患者はトラック島で罹病した少数を除いて、多くは南方島嶼の戦線から送られた栄養障害の、もはや快癒の見込みのない重症で占められ、洞窟には死臭がたちこめていた。

「ここで死んだら犬死だからな。みんな元氣を出すんだ！」患者を励ます私の怒声は、同時に私自身に対するものでもあつた。怒声を大きくすればいいほど患者たちの耳には空しく響くに違いないという思いが私に返ってくる。その度に受けとめられぬ遺瀨なさに臍を噛むのだが、治療の道のない状況下ではそう叫ぶことが唯一の医療行為であつた。

濠は爆撃の風圧を除くために極度の曲折を施してある。外光が届くのは、せいぜい五メートル程度だ。その奥に常時八十名近い患者がボトボトと水滴を落とす低い天井の下に枕を並べている。十メートル間隔で裸の豆電球がぶら下がっているが、それは却つて怪しく患者の生命の夢なさを感ぜさせた。

北海道や信州の郷里に妻子を残している兵たちは、あるいは私の怒声をすまないに受けとめ、生への執念を一時的にも燃やそうとするかも知れないが、妻子のない若い兵隊には空念化にすぎない。死亡率は若い者ほど高いのだ。私は奥の方へ歩を移しながら「元氣を出せよ。その内輸送船が入ればテカテカのシャツを食わせるからな」などと、あてもないことを、あたかも確立の高いような調子で叫んだ。濠を進むにつれて尿臭が濃く渦巻いている。私は一人一人の体温と脈拍を調べる。気休めにすぎなかつたが、その間に一言でも患者と言葉を交わすことが、彼らを生に引き戻す力になるのだと信じたかつた。

『共生の大地アリアンサ』木村快著、待ちに待ったポ語訳、ニッケイ新聞出版

日本語版大好評ポルトガル語版販売開始!!

共生の大地アリアンサ Aliança A TERRA DA COOPERAÇÃO

読もう!! 子や孫に読ませよう!! 伝えよう!!

ご注文 お問い合わせ 詳細はニッケイ新聞社 11-3340-6060 担当マリアまで 郵便での注文の方は、太陽堂・フォノマキまで

ニッケイ新聞社 太陽堂 フォノマキ竹内書店 高野書店 11-3340-6060 11-3208-6588 11-3104-3399 11-3209-3313

特別価格 R\$50

